

# 石鎚山で出会った鳥たち

お山で鳥たちの鳴き声はよく耳にしますが、さらに姿を確認できると、とてもうれしい気持ちになります。「何をしているのかな?」と、注目してみましょう。鳥の撮影はなかなか難しいですが、頂上山荘に勤務する当団体のスタッフ人見義一さんが撮影した貴重な写真をご紹介します。(参考:「愛媛の野鳥観察ハンドブックはばたき」愛媛新聞社)

## ■ホシガラス

全長約35cm(石鎚山弥山山頂(1974m)、8月)  
黒褐色に星のような白いはん点があります。亜高山帯の針葉樹の森に生息し、県内では石鎚山系から赤石山系に見られます。シラベ、ウラジロモミ、ブナ、ミズナラなどの木の実のほか、夏には昆虫なども食べます。「ガーガー」という鳴き声は聞くけど、姿を見るのは難しいそうです。



## ■ルリビタキ・オス

全長約14cm(三の鎖巻き道、9月)  
オスは背～尾まで鮮やかな瑠璃色で、脇腹のオレンジ色、胸の部分の白と、たいへん美しい色合いです。標高約1500m以上のウラジロモミやブナなどの山地で繁殖しますが、冬は里に下りて来るので、里山の雑木林でも見られます。昆虫、クモ、ミミズなど動物食が中心で、秋～冬は草木の実なども食べるそうです。



## ■ルリビタキ・メス

(三の鎖巻き道、9月)  
メスはオリーブ褐色。オス若鳥はメスによく似ていますが、翼の上面に青みがあり、脇のオレンジ色や尾の青色が濃いそうです。日本野鳥の会愛媛の方に確認いただいたところ、写真の個体は「羽衣からすると成鳥で、尾の上面のみ青いので、メスでしょう」とのことでした。



# お山の表情 2020

新型コロナウイルスの影響により、異例づくめの日々が続き、皆さんもしんぼうと工夫に努められていると思います。そんな中でも石鎚山の自然の営みは着実に進行しており、その様子に安らぎを覚え、元気をいただきます。



2月



5月



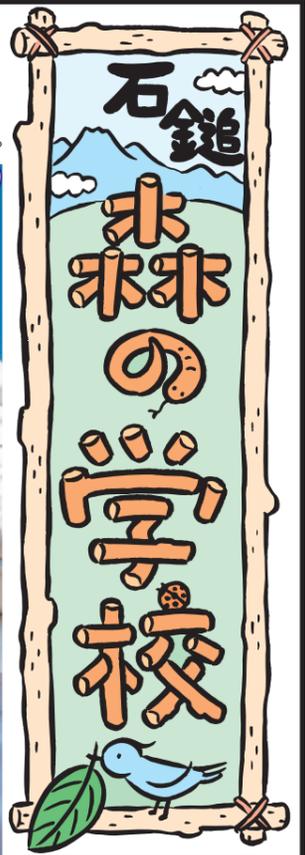
▲例年通り、ご神像は7/1から頂上社に鎮座し、7/10にお山を下りました



7月



頂上社での神事



【石鎚森の学校】VOL.16  
2020年夏号  
発行日 2020年8月  
制作 NPO法人 石鎚森の学校  
〒793-0062 西条市西田甲797番地  
Tel & Fax 0897-52-5275  
URL <http://ishizuchi.net/>



登山者の姿がない登山道

雪がたいへん少ない冬を終え、5月にはアケボノツツジが美しく咲きほこりました。7月1日～10日のお山開きの神事は例年通り催行されましたが、「それぞれの場所からお山に祈ってください」との石鎚神社の呼びかけがあり、コロナの早期収束が祈願され、静かな夏山の始まりとなりました。皆さんと集ってお山の自然を満喫できる日が早く戻りますように。



夜明けし時から頂上を望む

## \*\*\*ご支援ありがとうございます\*\*\*

石鎚森の学校は15年目を迎えました!この新聞で紹介させていただいた活動は、皆さまのご参加・ご協力ならびに、会員の皆さまの会費・寄付金などによって支えていただいております。今後ともよろしくお願いたします。新規のご入会もお待ちしております。

正会員75名/年会費5千円  
賛助会員60名/年会費3千円  
団体会員3団体/年会費3万円  
(令和2年7月末現在)

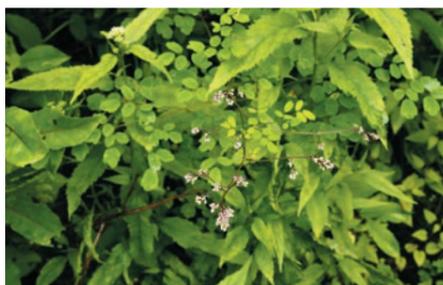
団体会員様(順不同)  
セキ(株)  
(有)石鎚観光  
(株)愛媛銀行

# ◆イシヅチの名前をもつ植物

イシヅチの名前をもつ植物は12種類が報告されており、写真掲載種以外にイシヅチミズキ、イシヅチイチゴ、イシヅチコウボウ、イシヅチザサ、イシヅチスズ、イシヅチドウダン、イシヅチノガリヤサがあります(後半の4種は分類体系の見直しで現在では使われない名前となっています)。イシヅチの名前をもつ植物のほとんどは、石鎚山系で発見され、石鎚山系の固有種か石鎚山系以外では数ヶ所にしか分布していない希少種であり、本州から隔離された山岳で数千年以上の時間を経て独自の分化をしたものです。特にイシヅチカラマツやイシヅチボウフウなど高所に生育する草本は脆弱な生育環境でかろうじて生き残っているため、そっと見守ってください。(松井宏光 石鎚森の学校理事、愛媛植物研究会会長)

## イシヅチカラマツ (キンポウゲ科) 石鎚唐松

1948年に石鎚山西冠岳で新種として発見されたが、現在では確認がきわめて難しい種である。石鎚山系と徳島県、宮崎県の山地の岩場に生育する。花弁は無く萼の付け根が淡紫色となることなどが特徴。愛媛県RDBでは情報不足(DD)、全国では絶滅危惧1B類となっている。(写真:池内伸氏)



## イシヅチウスバアザミ (キク科) 石鎚薄葉薊

ブナ帯以上に生育する四国固有のアザミで、石鎚山では日当たりの良い林縁などで比較的多く、夏から秋に薄紅色の花がつく。ほっそりとした姿、葉の刺は長く、頭花を触るとやや粘ることが特徴。(写真:池内伸氏)



## イシヅチテンナンショウ (サトイモ科) 石鎚天南星

剣山と石鎚山系に生育する四国固有種。葉は一枚で先が5枚に分かれ、初夏にヘビの鎌首のような花をつける。愛媛県絶滅危惧1B類。種の保存法で国内特定希少野生動物植物に指定されているので採取は厳禁、しかも有毒。(写真:池内伸氏)



## イシヅチザクラ (バラ科) 石鎚桜

石鎚山系と東赤石山に生育する愛媛県固有種。県内ではもっとも遅く咲く桜で、アケボノツツジが咲く5月上旬にほのかに紅を帯びた白い花をつける。夏に黒い実が付くがまずい。愛媛県絶滅危惧II類。(写真:松井宏光)



## イシヅチボウフウ (セリ科) 石鎚防風

石鎚山や瓶ヶ森、寒風山の頂上付近の岩場にのみ生育する石鎚山系の固有種。葉は細かく切れ込み、強い光沢がある。夏に多数の小さな白い花が傘を広げたように咲く。この仲間には強い薬効があるが、生でも煮ても相当に苦い。愛媛県絶滅危惧II類。(写真:松井宏光)



## ◆石鎚山系における E-BIKEモニターツアー (令和元年9月7日)



石鎚山系において、交流人口・関係人口を増やすことを目的に、新たなアクティビティの可能性を検証するためE-BIKE(電動アシストスポーツ自転車)を活用したツアーが、県自然保護課により催行され、モニターとして参加しました。

コースはおもごふるさとの駅(愛媛県上浮穴郡久万高原町)～石鎚スカイライン～土小屋往復で、合計走行距離は44.2km、標高差920m(572m～1,492m)! 自転車に乗るのは数年振りという森の学校スタッフにとっては、想像していたより少々ハードな行程でした。確かにE-BIKEの性能は素晴らしく、土小屋までの登り約2時間、下り1時間程を無事走行できました。昼食後の感想発表では、参加者がそれぞれの見地から思うところを発言しました。今後、E-BIKEと石鎚山系、どのような関わりを展開していくのでしょうか。楽しみです。



## ◆森林保全活動 (令和元年11月7日)



石鎚山成就地区において、恒例の森林保全活動を行いました。例年どおり、当法人理事・鶴見武道先生(えひめ千年の森をつくる会会長)、同じく河野強さんにご指導をいただき、9名が第1園地の下草刈りや枝打ちを行いました。

この園地には当該活動で10年程前に植樹したヤマザクラやモミジなどが育っています。後10年もすればさらに、サクラは沢山の花を付け、モミジは紅葉し、来山者をいやし楽しませてくれるでしょう。

この園地を自然のままに放置するの

意味では自然の保全かもしれません。ですが、一度人が植樹などで手を入れたエリアは、人によって適度なメンテナンスを行わないと、荒れた感じになって行きます。地球温暖化と呼ばれて久しく、異常気象や自然災害が国内外で多発する昨今、微々たる活動と承知していますが、自然環境の保全は、一人ひとりができることをできる時に積み上げていく。まずは、その意識を持つことから始まります。私達スタッフの自然保全への意識は、10数年前に比べると大きく育ったことは確かです。

## ◆氷点下の森の自然観察会&雪遊び (令和2年2月8～9日)

今年は全国的な雪不足。石鎚も然りでしたが、連続ご参加4回を数えるリピーターさん、スタッフの合計12名が成就の自然を楽しみました。当日は何とか数mmの雪が降って登山道もうっすらと白くなり、動物の足跡や自然を観察しつつ成就社境内へ向かいました。3歳の子供さんも霜柱やツララに興味津々でした。到着後、境内に雪が無くどうしたものかと思っていたら、皆さんで屋根から落ちた雪の小山に周辺から雪をかき集めてカマクラ作り! ナント子供が入れるほどのカマクラができてしまいました。人間、諦めてはいけません、根性ですネ。

翌日目覚めると…ナント4cm程の奇跡の?! 積雪。雪遊びと雪景色をしっかりと堪能していただきました。講師でプロカメラマンの北添伸夫さんから子供さん2人にデジタルカルラが貸与されていましたが、100回以上シャッターを切ったとか。そしてそれぞれの作品が記憶されたSDカードはご本人へプレゼントされました。

毎冬環境が異なり、地球温暖化が実感されるような状況ですが、人は自然の中に入ると本来の人となり、その命が輝くことには違いはありません。また石鎚山でお会いしましょう!



## ◆石鎚山系生物多様性保全推進シンポジウム 地球・いきもの・ONE TEAM (令和2年2月15日)



石鎚山系の豊かな生物多様性を、二ホンジカの食害から守ることを目的に、愛媛県生物多様性保全推進協議会(事務局: 県自然保護課)が2018年度に発足し、当団体も普及啓発部会のメンバーとして活動しています。

会場の愛媛県生涯学習センターでは、自然の恵みを体感できる、枝や木の実を使ったクラフトづくりや、ジビエの試食コーナーなどが開設され、当団体も夏の自然観察会と冬の雪遊びイベントの様子を紹介するパネル展示を行いました。また、石鎚神社氏子立廻の会により、山伏装束の展示と法螺貝吹き体験も提供していただきました。

神奈川県自然環境保全センター野生生物課長永田幸志氏から、「人・森シカの共生を目指して/神奈川県丹沢山地での取り組み」と題する基調講演の後、パネルディスカッションでは、シカを捕獲するワナの説明や、シカやイノシシの肉を高品質の状態に流通させる取組などが報告され、多様な立場におけるノウハウ・情報の共有が進みました。

当団体も引き続き、石鎚山系の生物多様性とその恵み、二ホンジカによる植生被害と生態系への影響を正しく認識するための普及啓発を行い、地域での取組意識の醸成を図るために活動を続けていきます。

## 創作神話昔話『あ(明)ける。』 ~日と月のものがたり~



制作進行中!

『あ(明)ける。』は、無病息災・世界平和の祈りを込めた創作神話の舞台作品で、昨年からの篠笛奏者の阿部一成さんをはじめとする関係者間で構想が浮上り、実現に向けた動きが加速しました。

初パフォーマンスを令和2年5月5日14時に石鎚神社中宮成就社に奉納し、その後一般の方々を対象に舞台を展開するという計画でしたが、年明けから新型コロナウイルスの問題が発生。次第にその影響は深まり、中止か延期の選択を余儀なくされました。



検討の結果、オンラインリモートアプリZoomでリハーサルを重ね、フェイスブックで関係者に同時配信の後、編集した動画をオンラインで後日配信するという方法となりました。

予定通りの日時に、予期もしないオンラインというかたちでの催行。何とかやり遂げ、ホッとしたり、感動に涙するスタッフも…。

その後、動画を観賞された方より、「さらなる発信のために、ぜひともプロモーション版を制作すべき」とのリクエストを受け、緊急事態宣言の解除後に、自然の中でのパフォーマンス・撮影を進めることとなりました。まず、曾我部事務局長が担当する「大なる存在と語り部」の撮影収録が、かつて標高1千m前後の山中に存在した別子銅山の旧小足谷集落の遺構、小足谷劇場と接待館跡地で行われました。



往時は別子銅山の採掘によって栄え、社員社宅、醸造場、百貨店、小足谷小学校や小劇場などが建ち並んでいたという小足谷。山中の緑に眠る赤レンガの遺構群は、どこか神秘的で風の音や谷のせせらぎ、鳥の声などと一体化して特別な空気感が満ちていました。



6月の中旬には、同山中でアマテラス役のパレリーナ・久寿奏恵さんの撮影収録が行われました。制作スタッフとして、脚本・構成・音楽・原案・舞台補助、ヘアメイク、振付、制作・美粧、香り、演出・衣装、藍染め、面制作のプロフェッショナルが集結し、それぞれの思いと技術、パフォーマンスが融合しつつ制作が進み、プロモーションビデオが完成しました。どうぞ、ご覧下さい!

【プロモーションビデオアドレス】 <https://youtu.be/hQLanqbq4el> 舞台がさらに楽しみです!